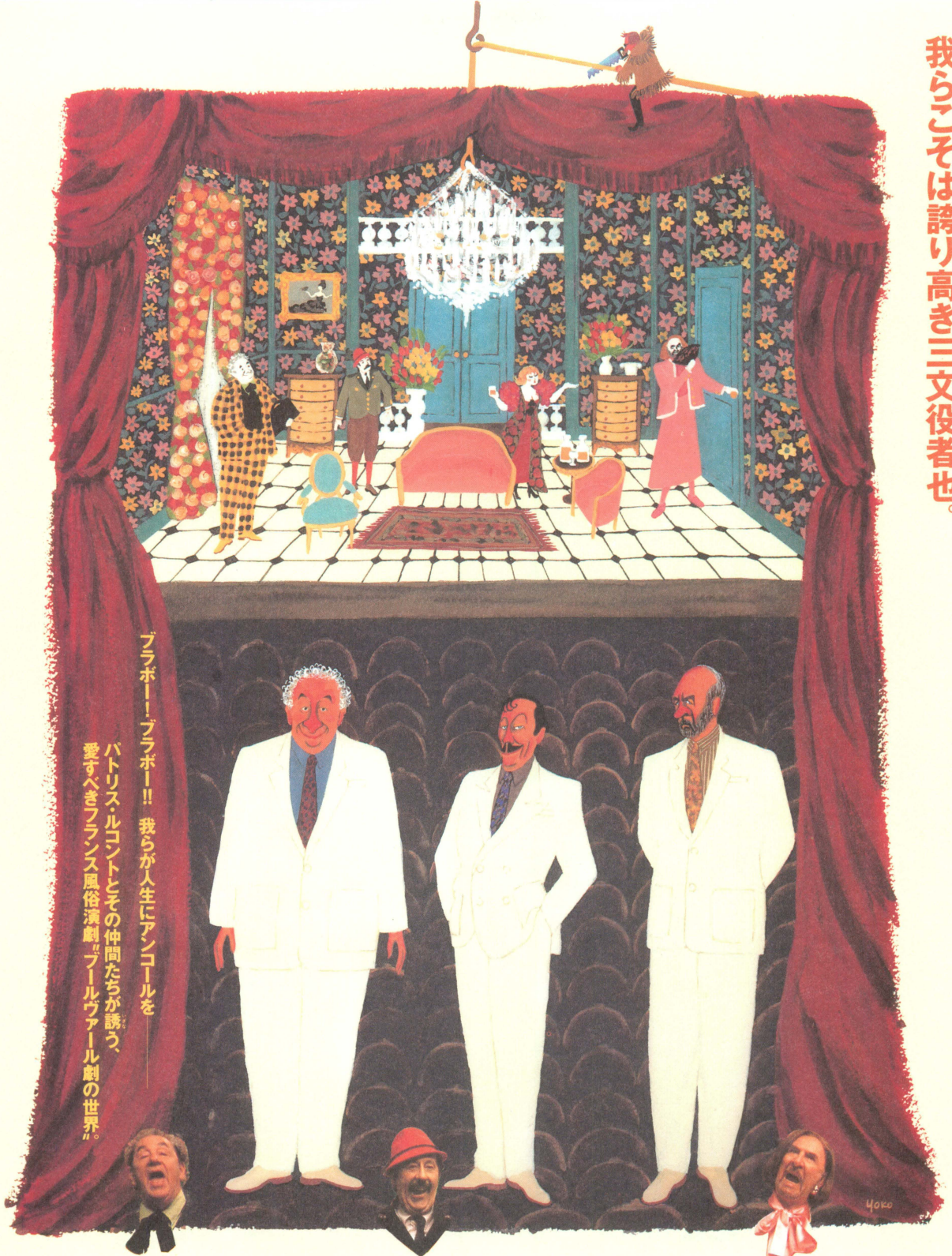


我らこそは誇り高き三文役者也。

ドンキホーテ



ブラボー！ブラボー！！我らが人生にアンコールを
 ハトリス・ルコントとその仲間たちが誘う。
 愛すべきフランス風俗演劇「ブルヴァール劇の世界」。

フィリップ・ノワレ
 PHILIPPE NOIRET

ジャン・ロシュフォール
 JEAN ROCHEFORT

ジャン=ピエール・マリエル
 JEAN-PIERRE MARIELLE

パトリス・ルコントの **大喝采** une comédie de PATRICE LECONTE
les Grands Ducs



カトリーヌ・ジャコブ
 CATHERINE JACOB

特別出演—ミシェル・ブラン
 et la participation de MICHEL BLANC



クロティルド・クロー
 CLOTILDE COURAU

監督・脚本：パトリス・ルコント 脚本・台詞：セルジュ・フリードマン 音楽：アンジェリーク&ジャンクロード・ナシオン 撮影：エドゥアルド・セッラ 編集：ジョエル・アッシュ 録音：ポール・レネ+ジャン・グダ+ドミニク・エヌカン 美術：イヴァン・モシオン 衣装：アニー・ベリエ 演出補：ローレ・ブルグオー
 製作主任：アント・ブリケッティ 製作代表：モニク・グリエ 製作総指揮：ティエリ・ド・ガネイ Une coproduction LAMBERT PRODUCTIONS - M4 FILMS - CENTRE EUROPEEN CINEMATOGRAPHIQUE RHONE-ALPES ZOULOU FILMS en association avec COFFIMAGE 7 (1995年度フランス映画50周年) 1.25:1.4マスコブ・カラー・D-CINE-デジタル5音(288x1)画調250
 配給：アルシネテラン 提供：関西テレビ放送+ポニーキャニオン+アルシネテラン

Illustration inspirée de l'œuvre de TOUO. ECR/Conception graphique et matériel publicitaire CLOUZO (C) 1995

主演は [髪結いの亭主]の ジャン・ロシュフォール と [タンゴ]の フィリップ・ノワレ と [イヴォンヌの香り]の ジャン＝ピエール・マリエル

そして特別出演は「仕立て屋の恋」の

ミシェル・ブラン

これが

パトリス・ルコント

監督の最新作



抱腹絶倒の



大喝采

ようこそ、ブルヴァール劇の世界へ。

ブルヴァール劇とは——
パリのレビュブリック広場からマドレーヌにかけての大通り、グラン・ブルヴァール沿いの劇場で好んで上演されていた風俗喜劇の通称。ブルヴァール劇の歴史は意外に古く、そのルーツは18世紀末の縁日芝居だとされている。

悪趣味で古臭いけれど、えも言われぬカタルシスがあり、華があり、そして何よりも人情がある——大衆演劇の醍醐味を知ってしまった人ならば、舞台上の役者たちがどんなに大仰な芝居をしようとも、また衣装や美術のド派手な色彩感覚に面喰らわされようとも、それはそれで何物にも変えがたい魅力を感じてしまうだろう。下世話さはむしろ饒舌にさえ感じられ、野暮ったさは郷愁へと転じていく……。パトリス・ルコントの大喝采で描かれるのは、正にそうしたフランス版大衆演劇ブルヴァール劇の世界である。ルコント監督はこの通俗的な演劇空間を最大限に利用して、軽快で心底たのしい、実に贅沢な虚々実々のスクリーン・ポール・コメディに仕立てあげている。

人生燦々・抱腹絶倒・役者根性・丁丁発止・油断大敵・至幸至福……の物語。

エディ(ロシュフォール)は一日にいくつもの舞台を掛け持ちしているが、端役専門の舞台役者、ヴィクトール(ノワレ)はしばらく舞台から遠ざかっており、カムバックの機会を虎視眈眈と伺っている。コックス(マリエル)は病弱な孫との生活を尊重して、パリで隠遁生活をおくっている。ある日この三人は知り合いの悪徳興行主ジャビロン(アラゴン)を騙くらかし、彼が準備している看板女優カルラ(ジャコブ)主演の新しい舞台「スクビドゥー」の役を横取りしてしまう。しかし舞台は最初から波瀾含み、実はジャビロンは多大な借金を抱えて会社は破産寸前。それで保険金目当てでカルラの命を奪おうと、あの手この手で罠を仕掛けてくる。一方そんな事とは知らないエディは、カルラに一目惚れ。演技そっちのけで口説き台詞を連発。久し振りの舞台上で緊張が極限に達したヴィクトールは、口からセリフが思うように出でこない。気難しいコックスは女装の役なのに、スカートを着るのも髭を剃るのもまづら御免と出演拒否。彼らの体たらく振りに、カルラはブツン寸前。はたして彼らは無事に開演を迎えることができるのだろうか。

une comédie de PATRICE LÉCONTE

les Grands Ducs



LES CRITIQUES

- 人生最後に吸う、一服の煙草のような味わいの映画(STUDIO誌96年2月号)
- 元気の出るロードムービー。最初から最後まで、たまらなくおかしい。(フランスMAX誌96年3月号)
- パトリスは名優三人に演じる悦びを与えたが、それと同じくらいの悦びを、私たちにも与えてくれる。(FIGARO MAGAZINE誌96年2月24日号)
- ダイナミックなカメラ。三文役者の粹を魅せる衣装。ルコントの最新作は話題満載。(アメリカ・ヴァリエティ誌96年1月29日号)

10月19日(土)より抱腹絶倒のロードショー!! 《11月8日(金)まで》

★前売鑑賞券大絶賛発売中!

¥1,400 (当日一般¥1,700のところ)

アメリカ村 Big Step4F 06-282-1460

パラダイス・シネマ

連日 11:20 1:10 3:00 4:50 6:40